

実践記録 シリーズ 64

豊かな体験を子どもたちに ～完全学校週5日制の趣旨を生かして～

守門村教育委員会 派遣社会教育主事 関谷 昭夫

1 はじめに

生涯学習審議会答申(H11.6.9)では、子どもたちの豊かな心をはぐくむためには、家庭や地域社会で、様々な体験活動の機会を子どもたちに「意図的」・「計画的」に提供する必要があることを答申している。また、教育関係者だけでなく、おとな一人一人が、それぞれの立場で子どもの問題に関心をもち、さまざまな取り組みが地域で行われることを期待している。

守門村では完全学校週5日制を目前に控えた平成13年度に、子どもと保護者の生活実態や意識の調査を実施した。

その結果、自然豊かなこの地域でも「自然体験が少ない」と感じている保護者は50%以上で、全国調査(H10実施)と比較しても高い数値を示した。また、生活体験や社会体験も全校調査と同様な結果であった。校外活動で子どもや保護者が望む活動では、「自然体験」と「スポーツ活動」が高い数値を示した。

家庭や地域へのきっかけ作りとして試行事業「みんなで遊ぼうの日」を2回行った。また、住民学習機会として「村おこし守門大学」中で、完全学校週5日制をテーマにした講座を実施した。



2 守門わいわいKidsセンターの取り組み(平成14年度から)

基本構想

- 進んで活動へ参加する子どもたちの育成「すすんで」
- 家庭、地域全体で子どもを育てる体制作り「みんなで」
- 家庭教育力の向上「すくすく」

守門わいわいKid'sセンター構想

- 子ども体験活動事業
- 地域活動活性化事業
- 親子活動支援事業

3 子ども体験活動事業の実際

○そば打ち体験教室

守門村福山地域で収穫したそば粉を使って、親子でそば打ちの体験を行った。

そば打ちは初めて、という親子がほとんどで興味津々、有意義に活動していた。



そば打ち体験

○ブーメラン工作教室

日本ブーメラン協会会員である



ブーメラン工作教室

講師の方を招いて、工作教室を行った。紙を使った室内ブーメランをメインに活動した。家庭にある厚紙からオリジナルブーメランを作り、みごとキャッチすることができた。

○手話体験教室

地域の手話ボランティアの方を講師に招いて体験教室を2回にわたって実施した。

講師の方の優しい人柄と指導により、参加者は知らず知らず手話の世界に入り込んでいった。



手話体験教室

このほかに、紙ヒコーキ教室や炭焼き教室、ニュースポーツ教室など様々な活動に取り組んだ。

参加した子どもたちは、一様に「楽しかった」「新しい発見があった」と語っている。しかし、参加者は各事業で20人前後であり、もう少し多くの参加者が欲しいと感じる時もあった。多く参加すればよい、というものではないが、週末活動の選択肢の一つとして、子どもたちや保護者へ定着するような取り組みが求められる。

4 おわりに

本年度から、県の補助(いきいきウィークエンド夢事業)を受け入広瀬村と連携を持たせた事業を展開している。

それぞれの地域の持ち味を大切にした事業を展開しようと計画している。学校との連携や情報PRをより工夫し、充実した事業になるように関係各位の支援をいただきながら努力していきたい。